

F-35Aの航空自衛隊千歳基地への配備について

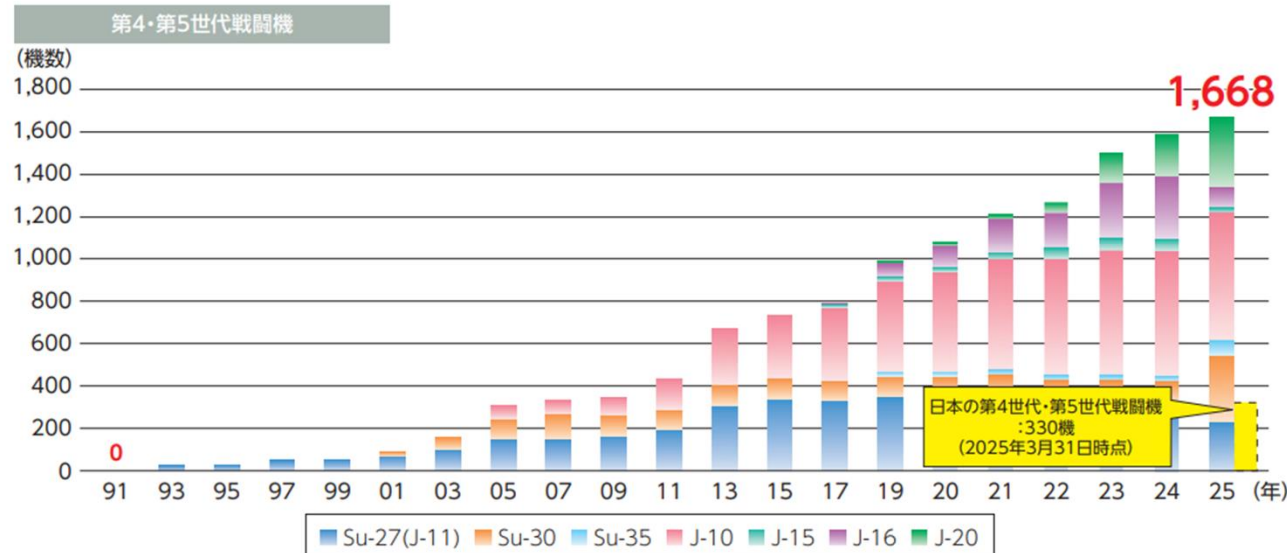
**令和7年12月
防衛省**

我が国を取り巻く安全保障環境とF-35Aの必要性

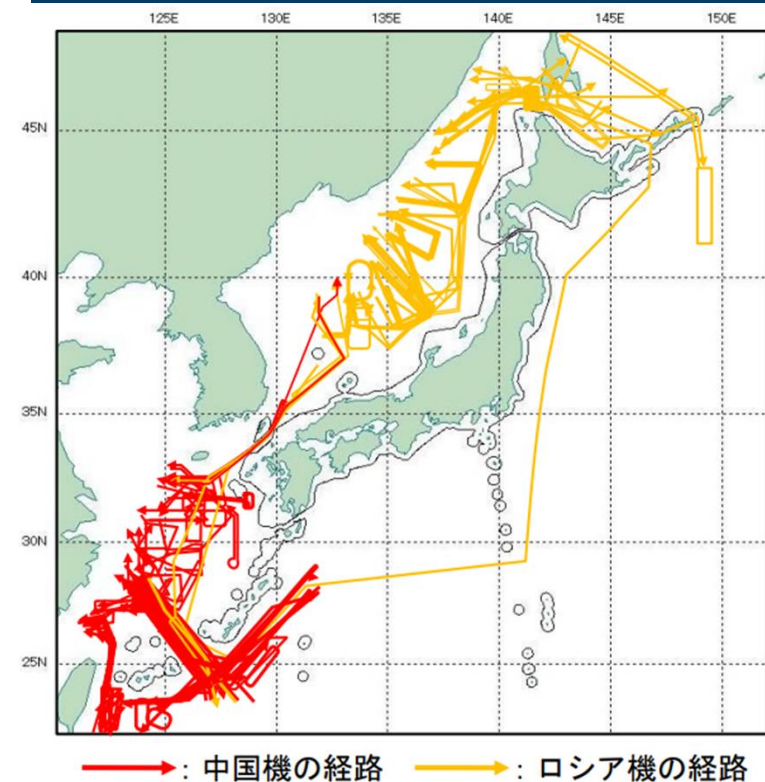
- 我が国周辺国は、ステルス性を有するとされる戦闘機を含む新型機の導入や既存機種の改修を進め、**その航空戦力を急速に近代化**しています。
- さらに、近年、周辺国軍用機による領空侵犯が相次いでいるほか、爆撃機が長距離にわたり共同飛行するなど、**航空戦力の活動も活発化傾向**にあります。
- 防衛省・自衛隊としては、我が国の航空戦力の質・量を更に洗練・強化するため、高いネットワーク性能やステルス性能等を有する**F-35A戦闘機を着実に導入し、我が国の防衛に万全を期す**考えです。

中国の主な航空戦力 (令和7年防衛白書)

図表 I -3-2-8 中国の主な航空戦力



令和6(2024)年度に緊急発進の対象となった 中露機の飛行パターン例



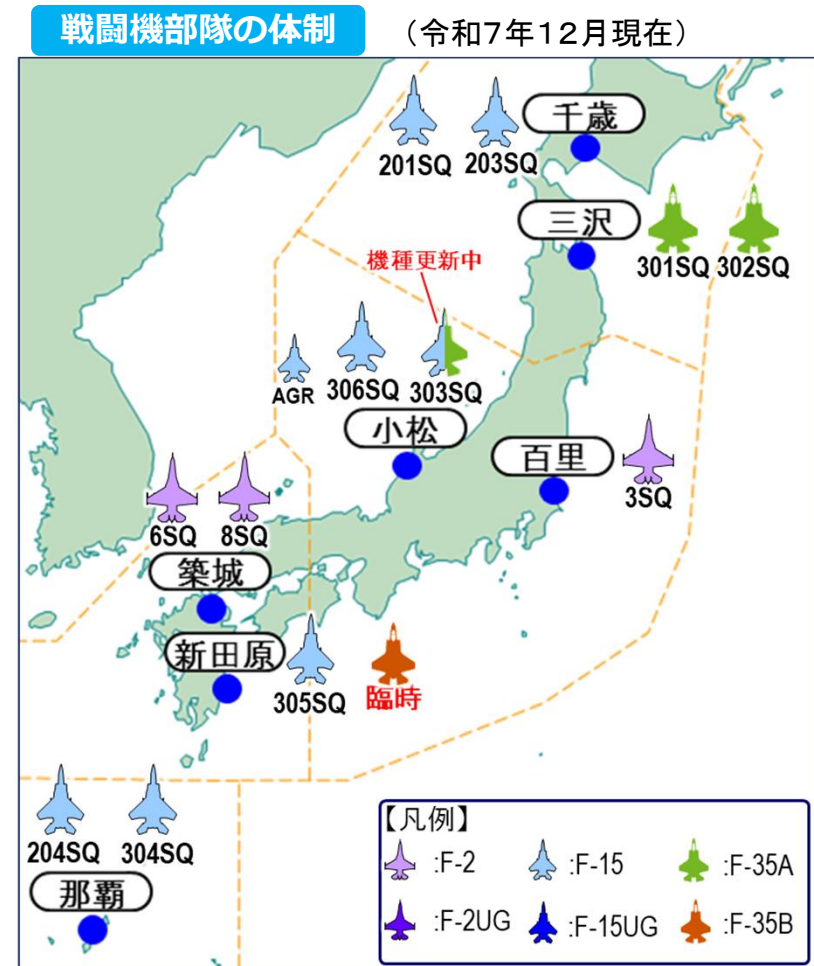
F-35Aの取得と千歳基地への配備

- F-35Aについては、平成24年度から取得を開始し、合計147機取得する計画であり、現行の防衛力整備計画（令和5年度～9年度）では、**計40機取得**する予定です。
- 配備先については、三沢基地と小松基地に2個飛行隊分ずつ、計4個飛行隊の配備を予定してきているところ、**5個目の飛行隊を千歳基地に配備したいと考えています。**

<千歳基地を配備先とした理由>

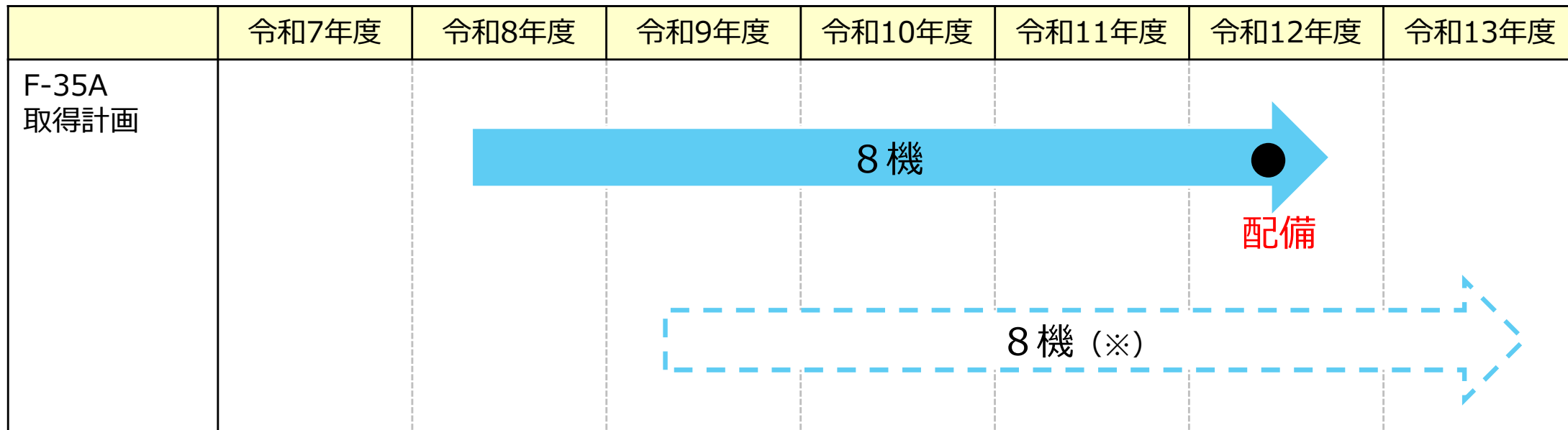
- 運用に必要な基盤がある、**戦闘機部隊が配備されている航空自衛隊の基地**であって、
 - ・ 配備に必要な地積が確保できるか
 - ・ 既に配備されている機種との効率的な置き換えが可能か
 - ・ 訓練環境（空域の広さ、他のF-35A部隊との連携）は十分に確保できるか
- などを考慮し、総合的に検討

⇒ **千歳基地は、F-35Aの配備先として最適と判断**



F-35A配備のスケジュール

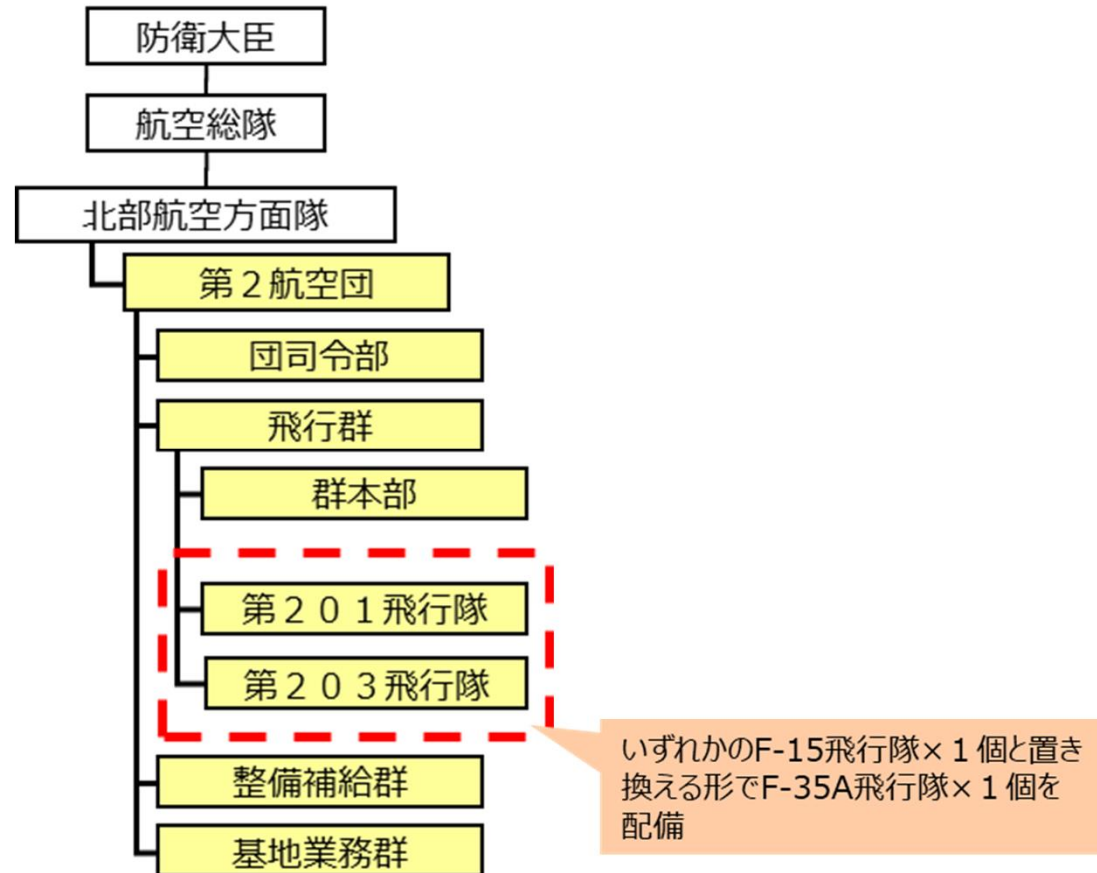
- F-35Aについては、令和7年度予算までに取得経費を計上したものは、三沢基地と小松基地に配備する計画であり、令和8年度概算要求に計上した8機から千歳基地に配備することを考えており、令和12年度から配備を開始する予定です。
 - F-35Aは、既存のF-15・1個飛行隊分（約20機）と置き換える形で、最終的に約20機を配備します。そのため、千歳基地に所在する戦闘機の機数が大きく変化することはありません。
 - なお、配備にあたって受入施設の整備を計画しており、令和8年度には調査・設計に着手する予定です。



※ 防衛力整備計画（令和5年度～令和9年度）においてF-35Aを40機取得予定。令和7年度予算までに24機取得しており、令和8年度及び9年度に残り16機を取得予定。

F-35Aの配備に伴う体制（部隊・人員）

- 現在、千歳基地にはF-15の飛行隊を2個配備しています。今後、F-35Aの飛行隊×1個は、いずれかのF-15の飛行隊×1個と置き換えて配備する計画であることから、**飛行隊の数は変動しません。**
- そのため、現時点において、**配備に伴う千歳基地の定員数について、大きな変化はないものと見積もっていますが、今後、一定程度の変動が生じる場合は、地元の皆様に対し、適切にお示しをしたいと考えています。**



F-35Aの安全性及び騒音

安全性

- F-35については、米国政府において、飛行の安全や任務遂行に重大な影響を与える事項として区分された課題（※1）があり、我が国としても、米国防省から、我が国が導入するF-35Aに関連した課題のリストを得た上で（※2）、**現時点において、飛行の安全や任務の遂行に重大な影響を与える課題は存在しないことを確認**しています。
- **米国防省はF-35に関する課題を分類して管理し、改善のための取組を継続して実施しています。**また、過去に発生した墜落事故についても、米側による事故調査の結果を踏まえ、**必要な対策が講じられています。**
- 安全性の確保は大前提であり、引き続き、教育や訓練を徹底し、飛行の安全の確保に万全を期してまいります。

（※1） F-35の技術的課題の区分について

カテゴリー I A : 飛行の安全に重大な影響を与える課題 → F-35 A、Bに該当なし

カテゴリー I B : 任務の遂行に重大な影響を与える課題 → F-35 A、Bに該当なし

カテゴリー II : カテゴリー I より軽微であるものの、任務の遂行に影響を与える課題

（※2） カテゴリー I に区分される課題が生じる度に、更新された課題のリストの共有を米国から受けており、直近でリストの共有を受けたのは令和5年6月。

騒音

- 米国政府の資料によれば、**地上においてエンジンを作動させた場合の騒音は、F-15Cと同程度とされています。**また、**離陸時の騒音値は、騒音源から1,000mの地点でF-15Eより約4dB程度高いとされています。**